

## 第50回夏季大学「エルニーニョ現象と異常気象」開講のお知らせ

教育と普及委員会

主催：(公社)日本気象学会

後援(予定)：気象庁，日本地学教育学会，(一財)気象業務支援センター，(一社)日本気象予報士会

小坂 優(東京大学先端科学技術研究センター)

2016年7月31日(日)

10:00-11:00

「エルニーニョ現象に関する海洋観測」

佐藤佳奈子(海洋研究開発機構)

11:00-12:00

「エルニーニョ現象と北極振動」

田中 博(筑波大学計算科学研究センター)

13:30-14:30

「エルニーニョ現象が社会経済活動に与えた影響」

田家 康(日本気象予報士会)

14:30-15:30

「学習到達度試験(クイズ形式)」

南 利幸(NHK 気象キャスター)

※講義題目・講義時間は変更となる可能性があります。

## ○講義会場

気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

会場の地図は、気象庁ウェブサイト(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/map.html>)をご覧ください。

## ○募集対象人数

定員100名程度

## ○受講料(消費税含む)

5,000円(学生3,000円)

参加申込受付後、郵便口座をお知らせしますので、そちらに受講料の振込みをお願いします。

## ○講義資料

受講者の方には、事前に講義レジュメをオンライン配布します。また、開催後に、講義まとめ録を「教育と普及委員会」ウェブサイトに掲載する予定です。同サイトには、過去の資料が公開されていますので、ご覧ください。

## ○参加申込方法

ウェブ・フォームによるオンライン受付を原則とさせていただきます。詳細は、「教育と普及委員会」夏季大学ウェブサイト(<http://www.metsoc.jp/about/教育と普及活動/夏季大学>)をご覧ください。

日本気象学会教育と普及委員会は、最新の気象学の知識の普及を目的として、学生・大学院生、小・中・高等学校の教諭、気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に、毎年夏休みの時期にやや専門性の高い講座である「夏季大学」を開講しています。

今回の夏季大学のテーマは「エルニーニョ現象と異常気象」です。エルニーニョ現象は、年～数年の時間スケールの気候変動の中では地球上で最も卓越した変動で、世界の天候にも大きな影響を与えます。また、2015年から2016年にかけて大きく発達したエルニーニョ現象は、1997年以降では非常に大規模になりました。このような背景から、今回の夏季大学では「エルニーニョ現象」をキーワードとして、理論・観測・数値シミュレーションにより明らかとなってきたエルニーニョ現象のメカニズム、気候変動や社会経済活動に与える影響等の幅広い内容について、専門家の皆様から講義を行っていただく企画にしました。

## ○日程、講義題目(仮題)、講師

2016年7月30日(土)

09:40 開講

09:45-10:00 「講師紹介と夏季大学の概要紹介」

10:00-11:00

「エルニーニョ現象とは(総論)」

前田修平(気象研究所)

11:00-12:00

「エルニーニョ現象と地球温暖化」

渡部雅浩(東京大学大気海洋研究所)

13:30-14:30

「気象庁におけるエルニーニョ現象の監視と予測」

安田珠幾(気象庁)

14:30-15:30

「エルニーニョ現象衰退後の夏季異常気象」

2016年6月

インターネットへの接続環境をお持ちでない方は、  
下記事務局の連絡先までお問い合わせ下さい。

○参加申込開始日

2016年6月20日（月）

定員になり次第、締め切らせていただきます。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel：03-3216-4403, Fax：03-3216-4401

---